浦辺ミッション実現の 50 周年に向けて！

浦辺　史
（1905～2002）

明けましておめでとうございます。法人５０周年まであと３年です。当法人は、多摩丘陵の一角にこぐま保育園を設立以後、７施設、職員２５０名を擁する法人へと発展してきました。創設者の浦辺史（うらべひろし1905～2002）先生は、小学校訓導、セツルメントなどの実践家としての経験、日本福祉大学教員としての経験から強く願っておられました。優れた実践を展開しよう！働く者を大切にしよう！人々のニーズに応える社会福祉法人であろう！と。民主主義に貫かれた法人経営を求め、金儲けや組織の私物化対してはとりわけ峻厳でした。

この法人は誰の所有物でもなく、子どもたち、子どもたちを育てる親、そして市民のものであると。そんな浦辺先生は、まだ若かった私に眩しく見えました。

戦中の牢獄を耐え抜いて、なお子どもたちのために生きようとした人でしたから。お国のために喜んで死ねる子どもを育てる国策教育に抵抗し、サツマイモの弁当さえ持ってくることができない子どもたちに心を痛めました。もし天国の浦辺先生が私たちの実践、運営、経営をごらんになったら、どう仰るでしょうか。

理事長を仰せつかって以後、どうしたら、浦辺先生の願いを実現できるか、考え続けてきました。子ども利用者を深く理解し寄りそう実践を磨き続けること、その実践の拠点を地域に確立し拡げること。

そして、なにより法人に関わる者がお互いを理解し合い、私たちに何ができるか常に探求し共同する精神を培うことではないかと。

相互批判は自己利益のためにではなく、創造的実践と経営のためにこそあるはずだと。

現状に甘んずることは楽でしょうが、現実が大変だからと言ってそこにとどまっていたり自己保身だけを考えていては、法人はやがて内部から崩壊し衰退します。なにより、それでは、人々の願いに応えることができません。

一人ひとりの力は小さく法人としての力量もまだまだ十分とは言えませんが、もう一踏ん張りしようではありませんか。法人は今年、総力を結集して５０周年事業をプランニングします。

DVや貧困にあえぐ母子のための施設もいいでしょう。子ども食堂併設の保育園学童保育の合築施設も素敵ですね。

駅近くの小さな保育園も喜ばれそうです。どこにどんな施設を作るかはこれからです。財力こそ乏しいですが、当法人を応援して下さる方が全国にたくさん居られます。この法人には意欲に溢れた優秀な《人財》もいます。理事長として力を尽くしたいと思います。浦辺ミッションの実現のためにどうかお力をお貸し下さいますよう。

多摩福祉会理事長
垣内　国光

たまふく

法人だより

社会福祉法人 多摩福祉会
きもちつながる、想いひろげる。

連絡先
〒155-0031
東京都世田谷区北沢
2-36-9 ベル下北沢４階
TEL:03-6804-8345
FAX:03-6804-8347
Mail
tamafukushikai@gmail.com

【今号の見出し】

1面：垣内理事長挨拶
「浦辺ミッション実現の
50 周年に向けて！」
中面：多摩福祉会
保育・学童支援合同
研究集会報告
4面：上北沢こぐま保育園
「職員・子ども達・保護者…
みんなで作る
《子ども達の食》」

職員・子ども達・保護者…
みんなで作る「子ども達の食」
上北沢こぐま保育園くりの木のおうち

上北沢こぐま保育園は３年目の冬を迎えようとしています。こぐま保育園から始まった多摩福祉会。向山、砧、上北沢と受託してきましたが、形態は三者三様でした。向山保育園は公設民営で献立は練馬区の統一献立。砧保育園は公立園の施設を受け継いだ民営で、献立はこぐまをベースにした独自献立。そして上北沢は建設から手掛けた施設で砧の献立をベースにした独自献立です。

《設計で大切にしたこと》

・事務スペースを厨房に隣接して設けることにより、隙間時間で事務が進められるとともに事務をしていてもすぐに現場の応援に入ることができるようにしました。

・泥野菜専用のシンクを前室に設け、冬季の野菜洗浄の負担を軽減しました。

・開口部を広く取り、子ども達からよく見えるようにしました。子どもの視線と高さを合わせるために、食堂にステップを置いています。

・食堂に面した厨房壁面に黒板を設置し、月々のお知らせを描けるようにしました。

・２階建てで異年齢と０歳児が分かれてしまという条件の中、それでもつながりを持てるように場所を設定しました。設計から関わることができたからこそ、各施設の経験を踏まえ、他施設の厨房を参考にさせてもらった素敵な厨房を作ることができました。

《日々の給食で大切にしていること》

・子ども達とより深く関わるために…

当クラスを持っています。箸の移行や食器の移行、アレルギー児の対応やクッキングの計画等も担当者がクラス会議に参加して行います。

また、余裕のある日は担当クラスの子どもと一緒に食事をします。一緒に食べることにより、リアルタイムで共感するとともに姿勢や所作なども手本となるように心がけています。

・四季を感じられるように旬の食材を使用し、それを積極的に発信するようにしています。食事を見に行った時に伝えるのはもちろん、行事食の際はお手紙を添えるようにしています。また、子ども達に馴染みのない献立などは園内放送（月２回程度）でクイズを出すなどして興味を持ってもらえるよう務めています。父母に対しては月１回の給食だより（くりの木通信）と黒板を用いて、季節の食材のことや注意点、子ども達の様子なども伝えています。

・子どもの力を引き出せるように食具や食器はその子の手指の発達に合わせたものを選び、次のステップへの移行を促すために必要な動きを遊びの中で取り入れてもらうようにしています。また、机や椅子の高さは良い姿勢を取るためにも重要なので、専用マットを用いることによって１．５ｃｍ単位で調整しています。

３年目を迎え、少しずつ余裕も出てきました。上北沢こぐま保育園は外国出身の保護者も多く、多国籍

今年度はそれぞれの郷土料理を献立に取り入れ、国際献立と称して中国、フランス、スリランカ、ベトナムの料理にも挑戦しています。これからは食育に学習にクッキングに、どんどん厨房の外での活動を増やしたいと話し合っています。

様々な施設の良い所取りで作った上北沢こぐま保育園ですから、職員はもちろん、子どもと父母と手を繋いで、最大限に使いこなしていきたいと思います。

今号は、理事長が浦辺先生への熱い想いと今後目指したい想いや上北沢こぐま保育園のみんなで作る給食、合同研究集会の報告など盛り沢山です！

特に給食の記事は、グローバル化が進んでいるなと感じました。

次号以降は、何を特集するか、いろいろ考え中ではありますが、ぜひみなさんのアイデアを頂けたらなと思っています。（江）

法人ニュース編集委員
伊藤亮子　（法人顧問）
中本琢也　（向山保育園）
小西風太　（砧保育園）
江藤龍之介（永山小学童クラブ）
イラスト　鈴木玲子（こぐま保育園）

参加者総数
138 名！

2019 年度　第5回
多摩福祉会　保育･学童支援合同研究集会～子どもに学ぶ～を終えて
2019.10.26

午前中は全体会を JTB フォレスタ（多摩市）にて行いました。オープニングセレモニーとして、昨年に引き続きこぐま保育園在園中の保護者の方にマリンバの演奏をしていただきました。いつもうたっていて馴染みのあるわらべうたが、柔らかく温かみのあるマリンバの音で表現されることに感動を覚えると共に、改めてわらべうたの素晴らしさを感じられる機会となりました。また、今年は打楽器も加わり、「でんでらりゅうば」がリズミカルなアレンジとなっていて、とても楽しい雰囲気で新鮮でした。

続いて、2018 年度に施行された新保育所保育指針の内容を、法人としてどのように捉えていくのかということに視点をおいたシンポジウムを行いました。初めに新指針の概要や課題について理事長から話され、その後保育園や学童保育の施設長より、実践の中で子どもから学んだエピソードが語られました。会場からは率直な疑問や気付きも出され、日々子ども達に向き合う職員として新指針とどのように向き合うのかということを、それぞれが自分に引き寄せて考える機会となっていたのではないでしょうか。

午後からはこぐま保育園に会場を移し、「遊び」「表現」「言葉」「特別な支援、ニーズに応える（A･B）」「グループ担当制と後追い」「睡眠と食事」「離乳食」「栽培やクッキングを通して」「アレルギーと健康」「保護者とともに育ち合う」「子どもの立場にたった運営のあり方をめぐって」の計 12 分科会に分かれて行いました。一番話したいテーマを選び、「この話をしたい！」という職員自身の主体的な思いが土台にある会として設定したのもあってか、どこの分科会も自然と熱を帯びて活発な論議がされていたようで嬉しかったです。現在抱えている悩みを共有し、他施設の職員の考え方や工夫を聞けたことで気持ちが楽になったり、明日の実践に光が見えたりと、今実際に目の前にしている子ども達にとってどのような保育･学童児育成を行うことがいいのかということについて、多角的に深められる時間となったのではないかと感じています。ここでは各分科会毎の具体的な内容には触れられませんが、ご興味のある方は実践提案をまとめた冊子の在庫がありますので、各施設や本部にて受け取っていただき、是非ご覧いただければと思います。

これからも「子どもに学ぶ」という視点を忘れず、法人全体で高め合っていけるよう努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

2019 年度　法人研修委員会一同

夢かなフェア 2019　開催

当日は、法人リクルート活動として初めて「夢かなフェア 2019」も行いました。

大学生はもちろん、高校生から現役保育士まで、計 5 名の参加がありました。

入職1年目の職員との懇談や、合同研究集会（全体会）の見学、最後はこぐま保育園の園舎見学を実施しました。

法人の雰囲気を感じながら楽しんで参加されている様子でした